

着付け職種技能検定 2級学科試験

令和3年6月8日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

問題 1. 時代と服装の関係について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 弥生時代

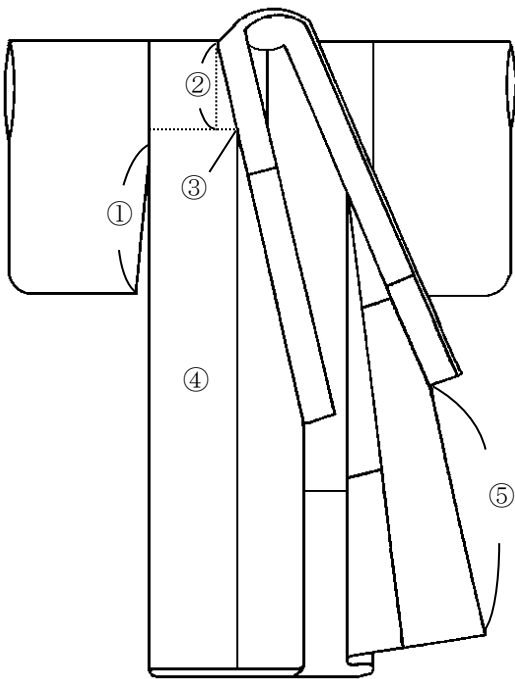
2. 江戸時代

3. 平安時代

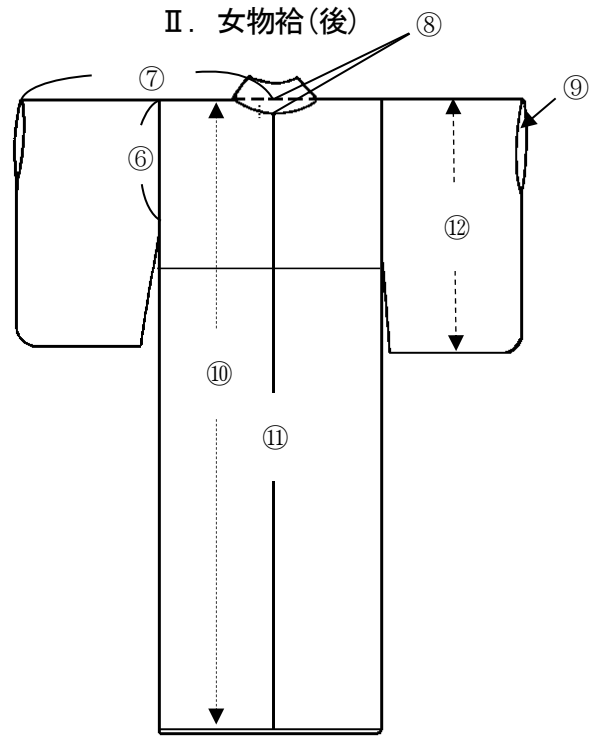
ア. 名護屋帯 イ. 貫頭衣 ウ. 十二単 エ. 訪問着 オ. 友禅染

問題 2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物袷(前)



II. 女物袷(後)



[語 群 I]

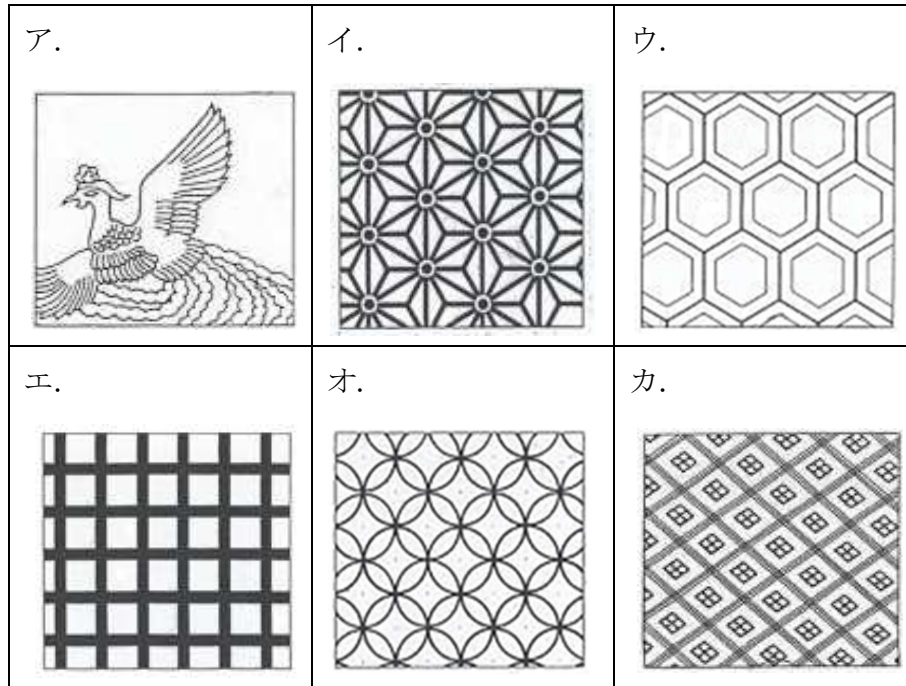
ア. 衽 イ. 前身ごろ ウ. 抱幅
 エ. 振り オ. 剣先 カ. 衿下(棲下)
 キ. 共衿(掛衿) ク. 身八つ口 ケ. 衽下がり

[語 群 II]

コ. 袖口 サ. 衿 シ. 袖付
 ス. 後身ごろ セ. 袖丈 ソ. 身丈
 タ. 背縫い チ. 脇縫い ツ. くり越し

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 1. 菱文 | 2. 亀甲 | 3. 格子 |
| 4. 麻の葉 | 5. 鳳凰 | 6. 七宝 |

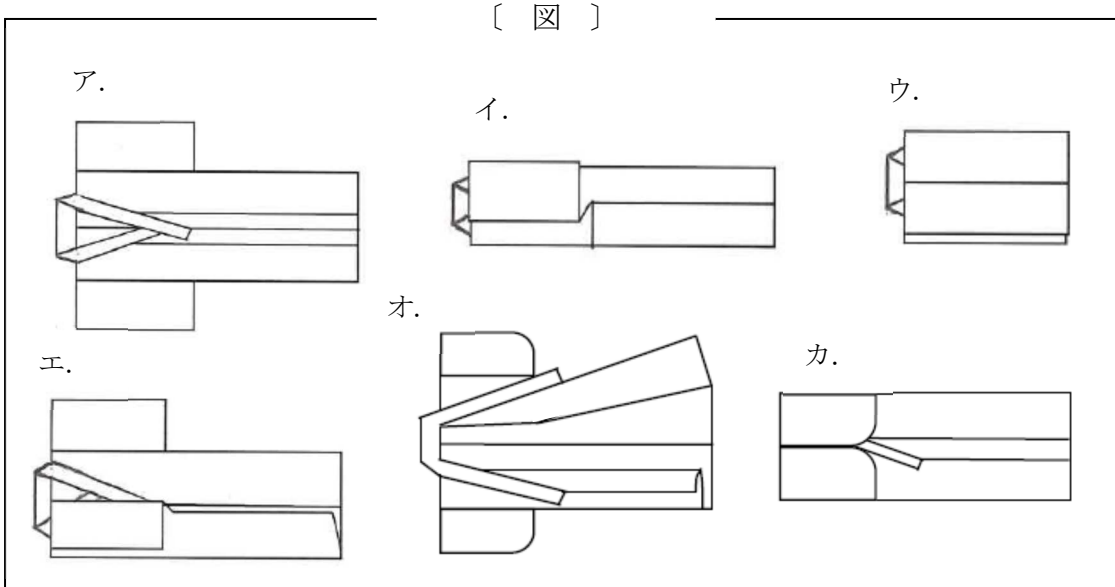


問題4. 次の男女の着物の違いを述べた文章について、正しい方を選び記号を記入しなさい。

1. 女物の着物には身八つ口が (ア. あり イ. なく)、(ウ. 人形 エ. 振り) がある。
2. 男物の着物は (ア. 身丈 イ. 着丈) に仕立ててあり、おはしよりが (ウ. ある エ. ない)。
3. 男物の着物の衿は、くり越しが (ア. あり イ. なく)、(ウ. 広衿 エ. 棒衿) である。

問題5. 長襦袢のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の織物について、あてはまる説明文を下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 羽二重 2. 紗 3. 綸子

ア. 織ってから精練したもので、光沢がありなめらか。帯地・羽織の裏地などとされる絹の紋織物。紋綸子は訪問着として用いられる。

イ. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。

ウ. 織り目が細かく、なめらかでつやがあり、礼服、羽織裏などに用いられる平織りの絹織物。

エ. からみ織りという織り方で、二本のたて糸が一組になって、よこ糸と交差するたびに左右入れ替わってよじれるために、よこ糸とたて糸の間に隙間ができて、仕上がったものは網のように軽くて透かし目ができる。

問題7. 下記の空欄にあてはまる染めの手法を選び、記号で記入しなさい。(同じ記号を何度使用してもよい。)

衣服地には、織糸を染めてから織るものを (1) といい、生地にしてから染める (2) とがあり、絹は (3) で、紗は (4) である。

ア. 先染 イ. 後染

問題 8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 新郎の袴下の帯は、兵児帯をする。
- イ. 留袖に合わせる帯は袋帯でもよい。
- ウ. 小紋に袋帯を合わせると礼装になる。
- エ. 上前の胸に柄があり、前身ごろと衽の柄がつながっているものを付下げ訪問着という。
- オ. 大島紬の訪問着は、礼装になる。

問題 9. 次の文章のうち正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 紬に五つ紋をつけると正式礼装になる。
- イ. 三つ紋は背紋一つと後袖紋二つである。
- ウ. 紋服の紋は、五つであれば縫紋でもよい。

問題 10. 次の着物に適した帯を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

1. 女物の小紋
2. 男物の浴衣
3. 訪問着

ア. 袋帯 イ. 兵児帯 ウ. 名古屋帯

問題 11. 次の文章の空欄に最も適当なものを下記の中から1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 白の丸ぐけの (①) は礼装用として用いられる。
2. (②) は、塩瀬が一番格が高く、縮緬より上である。
3. (③) は、比翼衿を略したもので、着物の衿の下にもう一枚重ねる衿のことをいう。
4. (④) は絞り、無地などがあり、装飾的な意味合いが強い。

ア. 半衿	イ. 裾よけ	ウ. 帯板
エ. 伊達衿	オ. 帯締め	カ. 帯揚げ

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方のうち、正しいものを2つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 中振袖 (袷)	_____	足袋 (色柄物)
イ. 黒留袖	_____	帯締め (色柄物)
ウ. 色留袖 (染め抜き五つ紋)	_____	帯揚げ (黒)
エ. 訪問着	_____	帯揚げ (色物)
オ. 新郎紋服	_____	白扇
カ. 喪服	_____	草履 (黒のエナメル)

問題 13. 次の着物の着用時季について、() にあてはまる最も適当なものを、下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 小紋の単の着物は (①) に着用する。
2. 絹の訪問着は (②) に着用する。
3. 紬の袷の着物は (③) に着用する。

ア. 7月と8月	イ. 5月から10月	ウ. 9月から3月
エ. 8月のみ	オ. 6月と9月	カ. 10月から5月

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、誤っているものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けをする時は、衣裳は衣裳箱に入れる。
- イ. ひも類は、首や肩にかけて作業をする。
- ウ. 着付けをする時のクリップ等は代用品でもよい。
- エ. 着付けを始める前は丁寧に一礼をする。
- オ. お客様の状況や、その場にふさわしい身なりを心がける。

問題 15. 次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 美容師免許を取得すれば、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。
- イ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなければ業として行うことができない。
- ウ. 美容師でなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行えない。
- エ. 有料で着物を着付ける場合は、美容師免許がなければ行えない。

全日本着付け技能センター

2級学科試験【模範解答】

令和 3年6月8日(火)

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 イ	2 オ	3 ウ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 エ	2 ケ	3 オ	4 イ	5 カ	6 シ
7 サ	8 ツ	9 コ	10 ソ	11 タ	12 セ

問題3 (各1点)

1 カ	2 ウ	3 エ	4 イ	5 ア	6 オ
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各1点)

1	ア	エ	2	イ	エ	3	イ	エ
---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題5 (各2点)

1	ア	2	エ	3	イ	4	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題6 (各2点)

1	ウ	2	エ	3	ア
---	---	---	---	---	---

問題7 (各2点)

1	ア	2	イ	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題8 (各2点)

イ	エ
---	---

問題9 (2点)

イ

問題10 (各2点)

1	ウ	2	イ	3	ア
---	---	---	---	---	---

※順不同

問題11 (各2点)

1	オ	2	ア	3	エ	4	カ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題12 (各2点)

エ	オ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1	オ	2	ア	3	カ
---	---	---	---	---	---

問題14 (各2点)

イ	ウ
---	---

※順不同

問題15 (2点)

エ
